

## 第 19 節 感染症内科研修〔選択科向け研修〕

### 一般目標

感染症内科は、感染症診療および抗微生物薬のスペシャリストとして院内外からのコンサルテーションを受け、各診療科等へアドバイスをを行う診療科である。専門的な立場からのアドバイスができること、さらに、各診療科や患者背景に配慮したアドバイスができること、感染症診断のみならず内科診断学を展開できることを目標とする。これに加えて、輸入感染症や特殊感染症などを入院・外来にて診療できること併せて目標とする。院内感染対策についても理解を深める。

### 具体的目標

- ① 丁寧な病歴聴取を行えるようになること。患者への配慮や、話しやすい雰囲気づくりを含む。
- ② 確実に身体所見をとれるようになること。特に、診断に直結する身体所見の確認を怠らない。
- ③ 患者記録(診療録)を正しく確認できるようになること。検査データや画像所見、抗菌薬の使用歴やアレルギー歴、合併症、特殊な患者事情など、対象はすべてである。
- ④ 鑑別診断を列挙できるようになること。特に、病歴と身体所見、画像等から、対象となる臓器を絞り込み、具体的な起炎菌を鑑別診断として挙げられるようになること。
- ⑤ 感染症の診断、具体的な治療薬、その投与量と投与期間について、提示できるようになること。
- ⑥ 主科と相談し、配慮した回答を診療録に残すことができるようになること。
- ⑦ 関わった症例を丁寧に追跡し、必要な修正やアドバイスができるようになること。
- ⑧ 抗菌薬の適正使用を理解し、使用状況について正しく評価できるようになること。
- ⑨ 培養結果を正しく解釈し、主科に適切にアドバイスできるようになること。
- ⑩ 塗抹検査結果を正しく解釈し、主科に適切にアドバイスできるようになること。
- ⑪ その他各種微生物検査について理解・解釈し、主科に適切にアドバイスできるようになること。
- ⑫ 院内感染対策について正しく理解し、実行および指導できるようになること。
- ⑬ 輸入感染症について診断と治療が行えるようになること。
- ⑭ 特殊な感染症について、診断と治療が行えるようになること。
- ⑮ 文献検索や読解を適宜行えるようになること。
- ⑯ ワクチンについて正しく理解し、必要な接種を行えるようになること。

### 実臨床研修

- ① 他科からの依頼(コンサルテーション)を受ける。
- ② 抗菌薬適正使用ミーティングに参加する。
- ③ 適宜、微生物検査室に足を運び、必要に応じたディスカッションを行う。
- ④ 血液培養陽性者について、毎日ディスカッションを行う。

- ⑤ 外来診療に従事する。
- ⑥ 入院診療に従事する。
- ⑦ 毎日のディスカッションを通じて、診療技術のブラッシュアップを行う。
- ⑧ 担当した症例に関して文献の検索や読解を行う。
- ⑨ 院内感染対策ラウンド等、感染対策の業務に参加する。
- ⑩ 救急患者について、的確な状況把握と病歴聴取、身体所見の確認を行い、診療録への記載、鑑別診断や必要な検査を列挙し、上級医・指導医とディスカッションや確認を行う。

### 研修評価

- ① 上級医や指導医とのディスカッションを通じて理解度や行動を評価する。
- ② 関係各職種からも評価を受ける。
- ③ その他、院内の評価様式に則って評価を行う。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟コンサルト	病棟コンサルト	病棟コンサルト	外来 病棟コンサルト	病棟コンサルト		
午後	AST 病棟コンサルト	ICT/AST 病棟コンサルト	AST 病棟コンサルト	AST 環境ラウンド* 病棟コンサルト	合同カンファ AST 病棟コンサルト		

AST: 抗菌薬適正使用推進チームミーティング

ICT: 感染制御チームミーティング